

創成川通の下水道幹線工事について

下水道工事の必要性について

- ◆ 創成川通の下水道幹線は、昭和40～50年代に整備し供用後約50年を迎えるとしており、生活汚水の排除のほか大雨による浸水から街を守る役割を担う重要な幹線である。
- ◆ この度、都心アクセス道路事業の整備にあわせて、創成川通に埋設されている下水道幹線の移設（更新）を実施する。

下水道工事の概要について（右図参照）

- ◆ 創成川通に埋設された下水道管は別路線へ移設し、総事業費は200億円を超える規模となる見込みである。

対象	内 容	右 図
移設対象の下水道管	創成川通東側の幹線（内径2.80～3.50m） 創成川通西側の幹線（内径1.20～2.00m）	
東側へ新設する幹線	新たに東1～3丁目線へ内径1.65～3.50mの下水道管を新設（延長=6.8km）	
西側へ新設する幹線	新たに創成川通～西5丁目線へ内径1.20～3.00mの下水道管を新設（延長=5.5km）	

- ◆ 施工方法は、市民生活への影響を最小限にするため、**地中を掘り進めながら下水道管を布設する工法を採用**（シールド工法・推進工法）。

※工事の起終点となる立坑箇所（右図■、●）や幹線に接続されている小さな管の切替え工事では掘削工事が伴う。
- ◆ 移設工事は令和5～8年度末にかけて実施する予定。

【工事工程のイメージ】

	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
シールド発進立坑の構築[掘削]		◆		
管の布設[シールド工法]		◆	◆	◆
マンホールの構築			◆	◆
小さな管の切替え工事[掘削]		◆	◆	◆

移設工事の期間中も、通常通り下水道を利用することは可能

下水道工事による事業効果について

- ◆ 供用後約50年を経過した下水道管を新しくする。
- ◆ 最新の耐震基準により整備するため、**耐震性能が向上する**。
- ◆ 移設が必要な下水道幹線に接続されている小さな管も口径を大きくして切り替える等、周辺の浸水安全度が向上する。

